

5 - 3 1985年4月11日東海道はるか沖の深発地震

The Deep Earthquake far off Tokaido, April 11, 1985

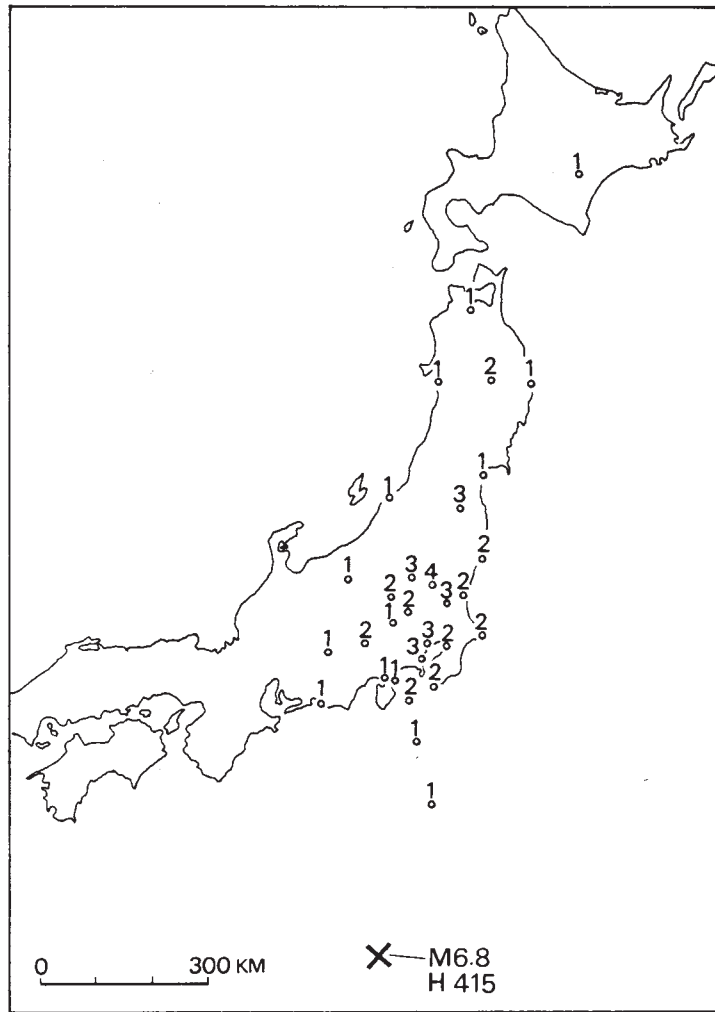
気象庁地震予知情報課

Earthquake Prediction Information Division, Japan Meteorological Agency

1985年4月11日01時26分に東海道はるか沖でM6.8の深発地震が発生した。震源は $29^{\circ}57'.8N$, $139^{\circ}17'.1E$, $H = 415\text{km}$, $OT = 01\text{時}26\text{分}19.8\text{秒}$ と求められた。第1図はこの地震による震度分布である。宇都宮で震度4が観測されたほか、中部地方から北海道までの各地で有感であった。第2図にメカニズム解を示す。

この地震の起こる一週間前の4月4日の05時21分に、これより南の小笠原西方沖($28^{\circ}15'.6N$, $139^{\circ}53'.8E$, $H = 458\text{km}$, $OT = 05\text{時}21\text{分}36.2\text{秒}$)でM6.6の地震が発生し、父島で震度2など関東地方から東北地方の一部で有感であった。この地震はマルチプルショックで、約12秒前に震源の深さ443kmの地震が発生した。

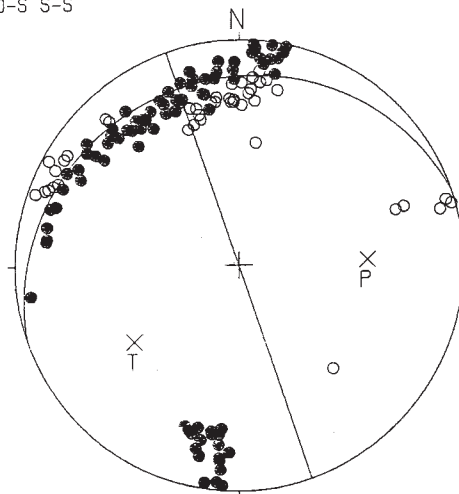
第3図は、東海道沖を中心とした図に示す範囲で1926年から1985年までに発生した深い地震の時・空間分布である。図3-(a)は震源の深さが150kmから300kmまでの地震についてのものであり、図3-(b)は301km以上のものである。図の中で斜線を施したものはM7.0以上の地震で、黒丸は今回の地震である。図3-(b)でM7.0以上の地震についてみると、1968年以後はそれ以前に比べ深発地震の活動が活発になっているように見える。



第1図 1985年4月11日東海道はるか沖の地震の震度分布

Fig. 1 Distribution of seismic intensities for the earthquake far off Tokaido, April 11, 1985.

11 APR. 1985 Lat=26
 Lon.=139.17 Lat=29.58 H=414 MAG.=6.7
 DIP DIR.=109 DIP=90 DIP DIR.=199 DIP=18
 P AZ=272 IN=48 T AZ=126 IN=48
 TYPE UNDETERMINED
 O-S S-S

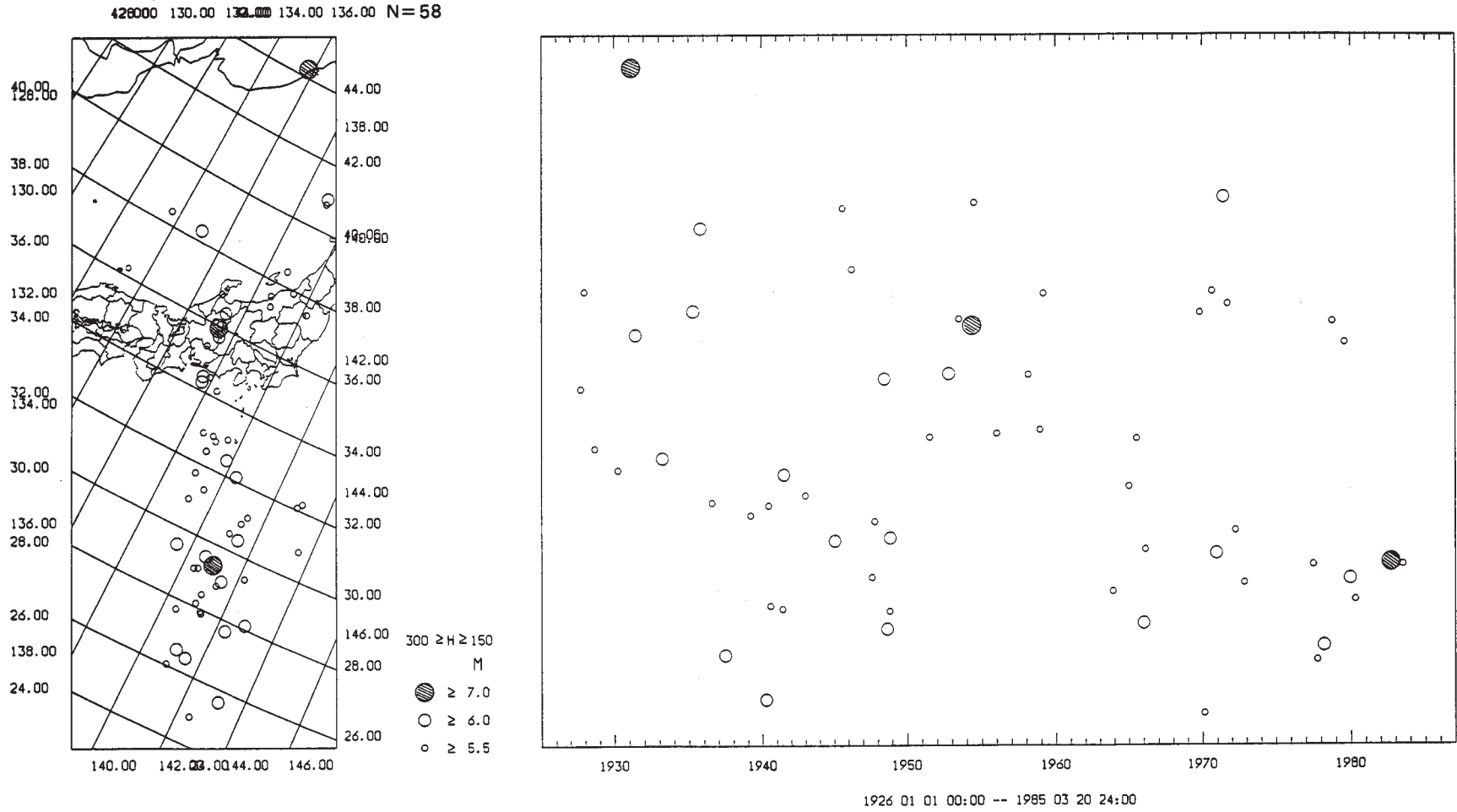


第2図 1985年4月11日東海道はるか沖の地震のメカニズム解（上半球投影）

Fig. 2 Focal mechanism of the earthquake far off Tokaido, April 11, 1985 (projected on the upper hemisphere).

● : up ○ : down

(a)

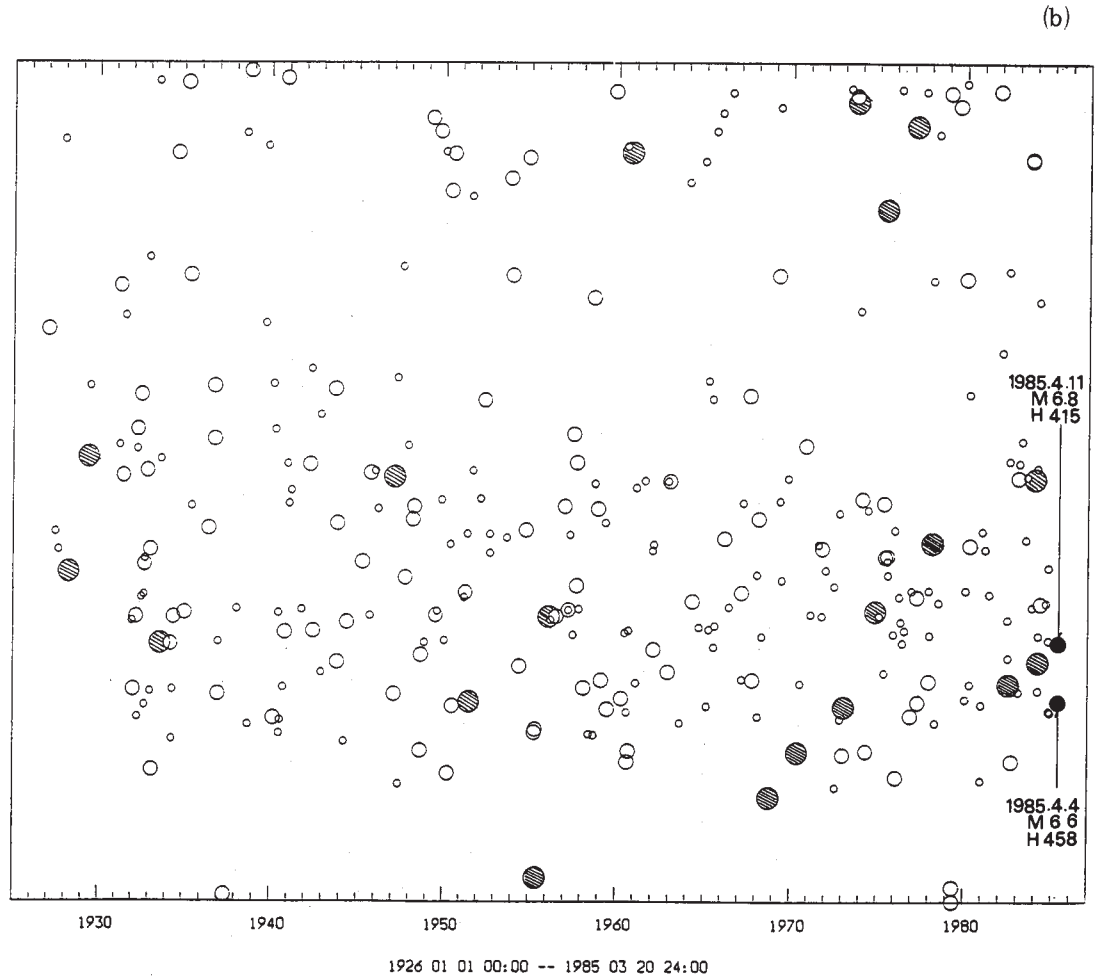
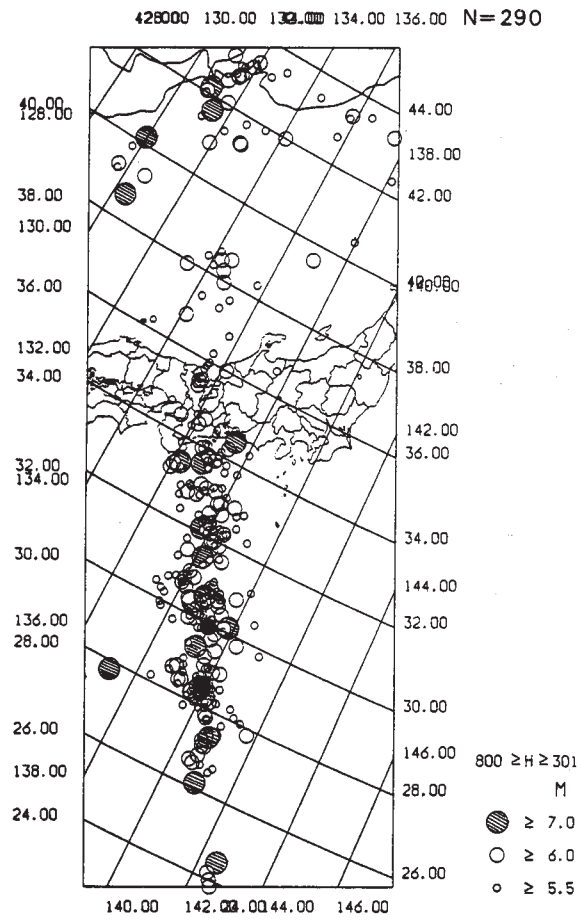


第3図 硫黄島付近から日本海西部にかけての地域における深い地震の時・空間分布
(1926年～1985年)

(a) $150 \leq H \leq 300\text{km}$ (b) $H \geq 301\text{km}$

Fig. 3 Space-time plot for deep earthquakes which occurred in the area from Volcano Island region to the western Sea of Japan, 1926 - 1985.

(a) $150 \leq H \leq 300\text{km}$
(b) $H \geq 301\text{km}$



第3図 つづき
Fig. 3 (Continued)